

# 野菜・花きの営農情報


《6月中旬～7月中旬の技術対策》

令和5年6月23日発行  
第2号  
空知農業改良普及センター本所  
Tel : 0126-23-2900  
Fax : 0126-22-2838

## 【全作物共通】

- ① ハウス栽培では気象変動や生育ステージに応じた温度管理、かん水管理を徹底しましょう。特に、日差しが強い場合は、遮光資材などを利用し障害の発生を回避しましょう。
- ② 外気温や日照の変化に応じたハウスの開閉が必要です。曇天後のわずかな日照でもハウス内温度は、急上昇しますので注意が必要です。
- ③ ハウス内及びほ場周辺の除草などのほ場衛生管理を徹底し、ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類などの飛び込みを防止しましょう。
- ④ 農薬使用基準を守り、薬害や他作物への農薬飛散に注意して防除を実施しましょう。除草剤は使用基準を遵守して下さい。また、重複散布や隣接畑への飛散には十分な注意が必要です。

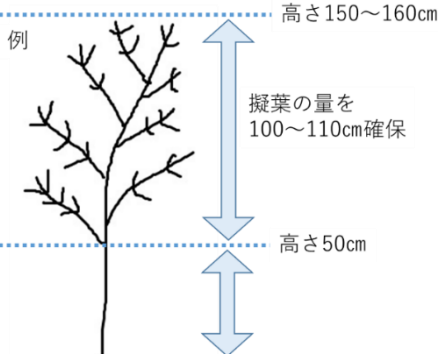
## 【野菜（果菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策												
メロン	<p>・4月中旬定植‘ルピアレッド’は、果実縦径11.5cmです。</p> <p><b>【温度管理】</b></p> <p>・最高気温30℃以下、地温18℃以上を目標に管理しましょう。</p> <table border="1"><thead><tr><th>生育期節</th><th>最低気温</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>開花7日前～着果期</td><td>15℃程度</td><td>やや高めの温度管理で雌花を充実させます。</td></tr><tr><td>果実肥大期</td><td>15～18℃</td><td>最低気温をやや高め初期肥大を促します。</td></tr><tr><td>ネット形成期</td><td>15℃程度</td><td></td></tr></tbody></table> <p><b>【かん水管理】</b></p> <p>・縦ネット形成期（果実肥大期）に入る作型では、かん水を控えなければならないので、事前にやや多めのかん水を行いベッド内の水むらを解消しておきましょう。</p> <p>・横ネット形成期は、ネットの発生や肥大を見ながら水分をやや多めにし、横ネットの充実を図ります。</p>	生育期節	最低気温	備考	開花7日前～着果期	15℃程度	やや高めの温度管理で雌花を充実させます。	果実肥大期	15～18℃	最低気温をやや高め初期肥大を促します。	ネット形成期	15℃程度		<p>・今後、曇雨天で経過した場合は、菌核病の発生が予想されます。換気を行いハウス内の湿度が高くないよう調整しましょう。</p> <p>・菌核病になると、茎では開花後落花した花弁が付着した部分などから腐敗します。ヤニを生じ、黒色の菌核を形成します（写真1）。</p>  <p>写真1: 菌核病</p>
生育期節	最低気温	備考												
開花7日前～着果期	15℃程度	やや高めの温度管理で雌花を充実させます。												
果実肥大期	15～18℃	最低気温をやや高め初期肥大を促します。												
ネット形成期	15℃程度													

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
ミニトマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月上旬定植‘キャロル10’では、第3花房開花盛期～第4花房開花始となっており、生育は順調に進んでいます。第1～3花房の着果数（花数）が過剰な傾向です。</li> </ul> <p><b>【温度管理の目安】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夜温が12℃以上を確保できるのであれば、夜間もハウスサイドを開放しましょう。</li> </ul> <p><b>【かん水・追肥管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かん水はマルチ下の土壌水分を確認し、生育状況に応じて少量多回数で行います。</li> <li>果実肥大が盛んな時期です。葉色や生長点をよく観察し、追肥を実施しましょう。追肥量の目安は、第3花房開花期以降、各段が開花する毎に窒素成分量1～2kg/10a程度ですが、数回に分けて施しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アザミウマ類が発生しやすい時期です。発生状況に応じて適期防除を行いましょう。</li> <li>高温・乾燥時や着果負担が増加する時期には、生長点付近の黄化や葉先枯れ症状の発生が懸念されます。石灰資材や加里資材等の葉面散布を行いましょう。</li> <li>曇雨天が続く場合、灰色かび病が発生しやすくなります。換気と防除に努めましょう。</li> </ul>
きゅうり	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月上旬定植‘まりん’は、主莖中段を収穫中です。</li> </ul> <p><b>【温度管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハウス内の温度は、日中25℃、最低気温15℃以上を目標に管理しましょう。</li> <li>ハウス内の湿度が急激に下がったり、温度が急激に上昇した場合、生長点が損傷する恐れがあります。急激な換気は避け徐々に換気を行いましょう。</li> </ul> <p><b>【かん水管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かん水は、土壌水分と生育状況に応じて行いましょう。葉色が薄い場合は、葉面散布を行いましょう。</li> </ul> <p><b>【摘葉】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>葉の寿命は展開後30～40日程度です。1株当たりの古葉の葉かきは2日おきに1枚程度にとどめましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハウス内が過湿状態の場合は、べと病などが発生しやすく、乾燥状態の場合は、ハダニ類が発生しやすくなりますので、発生状況に留意しましょう。</li> <li>べと病は葉のみに発病します。初めは淡黄色で、小さな斑点を生じ、後に拡大して淡褐色へと色の変化し、葉脈に囲まれた多角形の病斑となります（写真2）。</li> <li>ハダニ類の発生によって、葉緑素が抜け、白い葉となります（写真3）。</li> </ul> <div data-bbox="1054 1435 1437 1682" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1054 1682 1437 1738" style="text-align: center;">写真2:べと病</p> <div data-bbox="1054 1738 1437 2029" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1054 2029 1437 2085" style="text-align: center;">写真3:ハダニ類の被害</p>

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 整枝後は、つるが畝間をふさぐ前に中耕し、除草に努めましょう。</li> <li>• 中耕の際に追肥も同時に行うと省力化につながります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日焼け果の発生防止のため、うどんこ病の初期防除に努めましょう。</li> <li>• 強風等により葉の傷みが見られる場合は、雑菌の侵入が懸念されるため、発生状況に応じて防除を行いましょ。</li> </ul>
夏秋いちご	<p><b>【温度管理の目安】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 肥大期～収穫期に入っています。高温管理にならないよう、遮光や循環扇も活用しましょう。</li> <li>• 30℃以上になると生育が抑制されるため、日中の温度管理は、20℃前後を目標にしましょう。</li> </ul> <p><b>【かん水管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• いちごは乾燥・過湿に弱い作物なので、朝の葉つゆの状況を見ながらかん水を行いましょ。</li> <li>• 収穫期以降はかん水の回数を増やします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アザミウマ類、ハダニ類が発生しやすい時期です。果実被害を防ぐために発生初期の防除とハウス周辺の雑草除去に努めましょう。</li> <li>• 花びらの落ちが悪いと、そこから灰色かび病の発生につながります。ハウス内のこまめな換気と防除を行いましょ。</li> </ul>

**【野菜（葉茎菜類）】**

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>極早生品種は6月下旬頃、早生・中晩生品種は7月上旬頃に球肥大期となります。</li> <li>茎葉が傷つくと、各種病害の感染につながります。手取り除草等でほ場に入る際は、葉を傷めないように気をつけましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アザミウマ類やネギハモグリバエの発生を確認しています。乾燥条件が続くと発生密度は急激に高まりやすくなります。ほ場をよく観察し、防除により密度を低く抑えましょう。</li> <li>白斑葉枯病やべと病のほか、りん片腐敗や軟腐病等の細菌性病害も発生しやすい時期です。気象や過去の発生状況に応じ、予防防除を心がけましょう。</li> </ul>
アスパラガス	<p>○ハウス栽培</p> <p>6月13日現在で病害虫の発生は見られていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>摘心は、擬葉の展開が終わり、茎が伸びきって硬化した頃に実施しましょう。擬葉の量は100～110cm確保しましょう。例えば、下枝を50cmまで切った場合は、摘心位置を150～160cmとします。側枝の整理は摘心後に実施して下さい。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>夏芽の収穫が始まると多量のかん水が必要になります。天候を考慮し、土壌水分が不足しないようにかん水量・間隔を決めましょう。</li> </ul> <p>○露地栽培</p> <p>出荷量は昨年より少ない状況です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収穫期間は約30日間とし、立茎を開始しましょう。立茎に適した若茎（茎径12～14mm程度）を畦1m当たり12～15本を目安に確保しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジュウシホシクピナガハムシ、ツマグロアオカスミカメ、アザミウマ類の発生状況に注意し、防除を実施しましょう。</li> <li>立茎時に多雨になると、茎枯病が発生しやすくなります。また、野良生えは罹病しやすいため抜き取ります。立茎時の防除を徹底しましょう。</li> </ul>

## 【花 き】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
カーネーション	<p>3月中旬定植‘ミモザ’では6月12日現在で、草丈57.3cmとなっています。</p> <p><b>【温度管理の目安】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>晴天日の日中は、ハウス内が高温となります。ハウスを開放し、30℃を超えないように管理してください。高温が予想される場合は、遮光しましょう。</li> </ul> <p><b>【かん水管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生育が旺盛となり、葉先枯れ（チップバーン）が発生しやすい時期です。こまめなかん水を行い、発生を予防しましょう。</li> <li>収穫時期近のかん水は、切り花の水揚げや日持ちを悪くするため、土壤水分を確認し過湿にならないようにしましょう。</li> </ul> <p><b>【その他管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>抽台が始まったら、葉色を見て追肥を行いましょう。</li> <li>不要なわき芽を整理することで、側枝の伸長と開花が促進されます。</li> <li>生育に合わせてフラワーネットを上げ、誘引しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アザミウマ類とハダニ類は気温の上昇と共に発生が多くなります。葉裏を良く観察し、発生初期の防除に努めましょう。</li> <li>葉先が枯れてしまう葉先枯れ症状が発生した場合、こまめなかん水を心がけましょう（写真4）。</li> </ul>  <p>写真4: 葉先枯れ症状(チップバーン)</p>
スターチス（シヌアータ）	<p>3月下旬定植‘トールブルー’では6月12日現在で、草丈103.4cm、株直径73.7cm、葉数106枚、抽台本数12.4本/株となっています。</p> <p><b>【温度管理の目安】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>30℃以上の高温が続くと生育が停滞します。</li> <li>高温により萎れが生じると、抽台茎や花穂の曲がりにつながります。高温時は遮光資材や循環扇を活用しましょう。</li> </ul> <p><b>【かん水管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かん水量が多いと軟弱茎となるので、一番花の花穂が色づき始めたら、かん水は控えます。</li> <li>一番花の採花が3割程度終了した頃から、二番花の抽台に向けかん水を開始し、追肥を行います。</li> </ul> <p><b>【その他管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>草丈20cm頃からフラワーネットを上げ、茎がはみ出さないように誘引しましょう。また、倒伏防止のためサイドにロープを張りましょう。</li> <li>抽台茎がフラワーネットに引っかかり、曲がりの原因となることがあります。定期的に点検、誘引しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天候が曇雨天になり湿度が高まると灰白色の小斑点を生じる灰色かび病（写真5）の発生が心配されます。換気を十分に行い、予防防除を実施しましょう。</li> <li>採花期まで定期的に殺菌剤を散布しましょう。</li> <li>ハダニ類、アザミウマ類などの発生が増える時期です。ほ場をよく観察して、発生初期の防除に努めましょう。</li> </ul>  <p>写真5: 灰色かび病</p>

★暑い日は、こまめな水分・塩分補給で熱中症を予防しましょう★